

# 話し合い学習を促進する iPad 活用の手立て

## — 同じ作者の複数の作品を読んで共通点を探る学習活動を通して —

角納裕信（金沢市立木曳野小学校）・清水和久（金沢星稷大学）

概要：話し合い活動をするためには、自分自身の思いを持って場に参加する必要がある。そのための仕掛けとして、「例えば、■■と考えているのだが、その訳は、○○である。」等、具体的な話型が必要となる。またその過程で、仲間の意見の中から自分自身の考えの変容に気づける事が重要となってくる。今回は、話し合い活動を行う時に iPad 上の iBooks を表現の為の道具として位置づけ実践を行った。その結果、語ろうとする意欲が高まり、自分の考えの変容に気がつくことが出来た。

キーワード：ジグソー学習・協働学習・表現能力・iBooks

### 1 はじめに

本校において4年生を担当するのは、2回目である。同地域同学年で比較で言うと、指示の通りやすい、落ち着いた子ども達であると感じた。反面、基礎的学力が落ちる児童が多く見られる事が関係しているのか、発表にも自信が無く、声も小さく相手意識に乏しい。

クラスで、一つの授業を作り上げていく過程において、友だちの良さを認める事ができるような授業展開を経験したことがないと感じた。

仲間を認め合える、仲間を意識せざるを得ない授業展開を組んでいこうと考えた。

### 2 研究の方法

#### (1) 調査対象および調査時期、調査の観点

第4学年30名で6月後半、共通教材である「一つの花」から、作者の一番言いたいことは何だろうか？を考えること、伝え合うこととした。今回は、「並行読書」も鍵である。今西祐行さんの「一つの花」を含む



図表1；最終イメージ

「土のふえ」「すみれ島」の内容を通して今西さんの読者に伝えなかったことに迫っていく。まずは、4人班で2人組に分かれ、起承転結を読み取り、あらすじをつかむ。その後、それぞれのチームでiPadを使い、重要だと思う場面の写真を4枚だけ撮ってそれを基に「すみれ島」「土のふえ」の内容を仲間に伝える。ここで、なぜジグソー学習のような形にしたのかというと、2人組の「すみれ島」伝えるチームは、「土のふえ」の内容を知らないし、班の中の他の2人組に内容を聞くことでしか内容を知ることが出来ない。そこに責任感が生まれ、積極性が出てくるであろうと考えた。

すばやく、内容を読み取る練習も行った。もちろん起承転結を読み取る能力は、下の学年で習得しておかねばならない技能であるが、ここで復習の意味合いも含めて学習し直した。「大工と鬼六」「地獄へ行った3人」の絵本を読み聞かせて、その内容を伝え合えるように素早く起承転結に分けさせた。そして、作者の最も言いたかったことを考えるために、物語のパターンとすべき共通点を班の中で話し合うことで見つけさせた。

#### ①「地獄へ〜チーム」

いろいろな技や知恵を使ってピンチを脱出して

現世に帰ってこることが出来た。

## ②「大工〜チーム」

とんちをきかせてめんたまをとられることを阻止した。

この2冊に共通することは？登場人物の行っていることは、ウイット（機知）に富んでいると言うことである。ここから、どんなピンチに出会っても、考えることさえやめなければ、ピンチを抜け出すことが出来る、と言うことを言いたいのだと思う、と言う形で締めくくった。

上述のように学習パターンを学ばせた。

また、図表1にあるように、「ゴールの姿」も先に示して学習に入った。「最終的には、今西さんの作品のうちで、一番お気に入りの部分を挟みながら、ブックトークしよう！」というゴールの形である。

## 3 結果

図表2は、2人「すみれ島」チームである。責任重大だと感じたのであろう、読み聞かせの段階から、「もう一度絵本を見せて下さい」と子ども達の方から



言ってきて、図表2「すみれ島」をiPadで時間ぎりぎりまで話し合いながら削るべき挿絵はどれか、等相談し合いながら内容をまとめている姿が見られた。iPadは伝えるのに役に立った。起承転結に分けた場面をノートに書き出しているのだが、iPadは文字や言葉だけでは伝えきれない部分を、絵で補うことが出来る。またお話の順序も、絵を見ながら話す方も思い出すことが出来るし、順序立てて話すことも出来た。

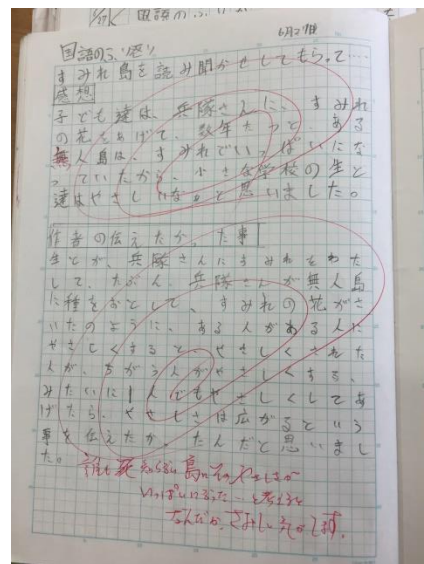
## 4 考察

同作者の3冊の本を読み比べるという「3」冊も無理なく進められ、仲間意識が出てくる数

字であると感じた。ただ2冊で伝え比べ合う方がスムーズであったのでは？という意見も聞かれ賛否両論であったが、最終的には、文章をしっかりと提示しなければならないという反省が残る。

## 5 結論

子ども達は、私の予想以上のことをふり返りに書いてきてくれた。このことは嬉しい誤算であった。当初は「戦争は悲惨であり、弱者がいつも犠牲になる。」と



図表3 振り返りノート

言うことを私は正解という風に考えていたが、「ある人がある人にやさしさをあげると、最終的には、優しさがいっぱいになっていく。」と言うことを伝えたいのだと思う。というように、今西3作品を読んで共通点を見だし、きちんとまとめることが出来ていたと思う。

## 6 今後の課題

国語である限り、叙述に沿って叙述を根拠に話をしなければならない。

また、最終的には、全員共通個人持ちの教材で、「すみれ島」「土のふえ」の文章、絵本がなければ、同じ土俵で深く読み取ることは出来ない。今回は、実験的に、iPadのiBooksを使って「すみれ島」「土のふえ」をepub型式やpdf型式にすることで電子書籍化して提示してみた。これからタブレットが個人持ちになったりしたときに、さっと教師の方から簡単に資料等配布できる時代がやってくるであろうと思う。

## 参考文献

ゼロから学べる小学校国語科授業づくり  
青木 伸生 著 明治図書